

第48回（令和6年度第1回）

市民動物園会議

会議録

日時：2024年7月11日（木）午後1時30分開会

場所：円山動物園内 動物園プラザ

1. 開　　会

●事務局（寺島保全・教育推進課長） 皆様お疲れ様でございます。それでは定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第1回市民動物園会議を開催いたします。私は本日の進行を務めさせていただきます、円山動物園保全・教育推進課の寺島と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は、佐々木委員と小菅参与が所用のため欠席とのご連絡をいただいておりますので報告いたします。はじめに、当園園長柴田よりご挨拶を申し上げます。

●柴田円山動物園長 園長の柴田でございます。皆様本日は大変お忙しい中、市民動物園会議にご出席いただきましてありがとうございます。暑い季節となりまして、動物たちには日陰をつけたり緑化を進めたり、また寒冷地の動物については、屋内の涼しいところや冷房の入るところで過ごしてもらうなどの対応を進めております。また来園者の方々にも、冷房を入れた建物に「冷房スポット」という掲示をさせていただいてお休みをしながら、観覧をいただいております。

さてこの会議でございますけれども、前回1月19日は円山動物園ビジョン2050、第2次実施計画の案についてご審議いただきまして大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。この計画について各手続きを踏まえて市長の決裁を経まして、策定できましたので、皆様にご報告申し上げます。

また4月に職員の異動もあり新体制でありますのでご挨拶をさせていただき、そして今年度の予算の概要、それから第1次実施計画の振り返り、そして新年度の新計画の概要、重点事業などについてご報告申し上げたいと存じます。

最後に5月21日にオープンしましたオランウータンとボルネオの森では、今週から雄個体の屋内施設への慣らし訓練に入っております。

それでは皆様には本日、どうか幅広い視点で忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

●事務局（寺島保全・教育推進課長） はい、ありがとうございました。それでは議事に入らせていただきます。以降の進行につきましては吉中議長の方にお願いいたします。

2. 議　　事

●吉中議長 皆さんどうもこんにちは、どうぞよろしくお願ひいたします。酪農学園大

学の吉中と申します。前回の会議、急用ができてしまいまして欠席させていただきました。申し訳ありません。今回は出て参りましたのでよろしくお願ひいたします。

では次第に沿って進めていきたいと思います。

まず一つ目、今、園長からもご説明ありましたけれども4月でだいぶ人が代わられたということですので、先ほど個別にはいろいろご挨拶させていただきましたけれども、一言ずつ自己紹介していただければと思います。よろしくお願ひします。

～事務局より各自自己紹介～

●吉中議長　はい、どうもありがとうございます。引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

それでは次、議事進めていきたいと思います。令和6年度円山動物園の予算の概要について事務局から説明をお願いします。

●事務局（伊藤経営係長）　はい、経営係長の伊藤でございます。資料2に基づきまして令和6年度予算についてご説明させていただきます。

まず（1）歳入の方ですけども、令和5年度、令和6年度の予算の比較で掲載させていただいております。令和6年度の予算の歳入の合計としまして、536,573,000円と計上させていただいております。昨年度に比べまして9,400万円ほど多い金額となっております。主な理由といたしましては入園料の方が4億5200万円ということで、昨年度よりも5400万円ほど多い金額で見込んでおります。こちらの方は入園者数が令和5年度（昨年度）は94万人という見込みのもとで予算上計上しておりましたが、今年度は102万人を見込んでおります。コロナ明けということで102万人ということで見込ませていただいているところです。ちなみにまだ確定の数字ではないのですが、昨年度の実績としましては86万5000人ほどの入場者で確定になる見込みになります。金額にしますと3億9900万円ほどになる見込みでございます。

あと今年度の予算が増えている理由としましては、繰入金のところで動物園応援基金分ということで1,700万円ということを計上させていただいております。ふるさと納税などを原資としまして応援基金の方に積ませていただいているところですが、そちらの方からも今年度は1,700万円分取り崩させていただいて予算に充てさせていただいているというところでございます。

続きまして、歳出の方ご説明させていただきます。今年度の当初予算としましては1,034,775,000円ということで歳出の合計の支出とさせていただいております。昨年

度に比べますと、7億2,100万円ほど大幅に減額になっているのですが、減額の主な理由としましては、類人猿館改築費について、類人猿館（オランウータンとボルネオの森）の方が完成しましたので、昨年度はそこを作るために予算が計上されておりましたが、今年はそこが8億8,700万円の減ということになっておりますので減額になった原因は主にこちらなのですが、ただ一方で光熱費の増とかもありましてそういうところの方は予算が増えておりますので、結果的に7億2100万円の減にとどまっているというところでございます。

続きまして、次のページへいきまして、動物園応援基金の推移ということで、こちらは予算とは直接は関係しないのですが動物園応援基金の方ですね、ふるさと納税などを原資としまして積み立てているところですけれども、先ほどふるさと納税の方、動物園応援基金から1,700万円取り崩させていただいたというのはこの表でいいますと、2024年度、(6年度)と書いてある欄の取り崩し額1,700万円というところですね、こちらの数字とリンクして先ほどの予算が捻出されているということになります。簡単ではございますが以上になります。

●吉中議長 はいご説明どうもありがとうございました。いかがでしょうか？

今のご説明に対しましてご質問、ご意見ありましたらお願ひいたします。細矢委員お願いします。

●細矢委員 二点ご説明をお願いします。一点目は入園料のところです。入園者数見込み、先ほどコロナ明けということで、8万人ほど増える予想ということでおっしゃられましたけども、ちょっと私の認識では、コロナ明けは過ぎているかなという気がするんですけども、増加の原因、要因とか、もう少し分析されていれば教えていただきたい。

それともう一点ですけれども、裏のページで円山動物園への直接寄付というところの関連ですけども、ちょっと私の勘違いかどうかわからないんですけども半月ほど前ですかね、北海道新聞の記事で、動物園4園で動物カードというんですか、それを配布しますよということが書いてあって、ここ窓口でどんなものか見たいと申し込みましたら、ちょっとよくわからなかつたんですね。それで返事が、動物園に寄付をされたら、そのカードを差し上げますみたいなことを言われました。動物園への寄付と動物園カードとの関係について教えていただけませんでしょうか。その二点です。よろしくお願ひいたします。

●事務局（伊藤経営係長） では私の方から、入園者数の見込みにつきましてご説明させていただきます。令和5年度の予測につきましては、正確に言うと令和5年の5月にコロナ禍が開けたと思うんですけども、こういう予測を作るときは令和4年の秋頃とか冬とか、その頃に数字を作っているもので、まだコロナが完全に開けるという見込みがない時点で一旦作らせていただいた数字だったので、令和5年度の94万人というのはある程度コロナの影響があると見込んで作っていた数字になります。

令和6年度が102万人といいますのは、コロナに入る前の平成30年頃の来園者数を参考に作っているものになりますので、完全にコロナの影響がなければこれぐらい見込めるかなということで予測させていただいたということになっておりますのでご理解の方いただければと思います。

●事務局（佐竹保全・教育担当係長） 二点目の円山動物園の直接寄付のご質問に関して佐竹の方から回答させていただきます。新聞に掲載されていた動物のカードについては、動物園で作っているものではなく、北洋銀行さんの基金を活用して、北海道環境財団が作成したカードになっております。今年度、8種類の動物のカードを作っています、それを2種類ずつ、北海道内の4つの動物園に配布されています。配布の仕方は各動物園に任せられているのですが、円山動物園ではイベントなどに参加していただいた方にご提供することとしており、直接寄付とは関係ないものになっております。一方、寄付に関するカードについては、円山動物園のサポートクラブという任意団体に対して寄付をいただいたものについては、例えば、動物のちょっと良い餌を買うなど、動物福祉などに資するものに活用できるような形で寄付をいただいております。

そのサポートクラブへの寄付をいただく際に、動物園の動物園センターと西門の方で、一口500円のご寄付という形でカードの方をお渡ししているものになっています。ただ、その場合、サポートクラブの団体の方にお金が入りますので、今回の動物園応援基金の直接寄付とは別のお財布になっています。この動物園応援基金の直接寄付については、ふるさと納税以外でこの基金に寄付したいという方が寄付するというようなお金となっています。以上となります。

●松原委員 今の細矢委員の質問の中で、令和6年度とそれから令和5年度の比較で94万人、102万人と、その主な理由はね、もうご説明いただいたんですけどちょっと細かい話になるかもわからないけど要するにコロナが5月頃にほぼ収束みたいな感じで、これからもあるかもしれないけど、そこの単純比較で94万人と102万人比較する

と 8%ぐらい増えているという数字なんですよね。だけど今補足の中で平成 30 年度のコロナになる以前も参考にしていて、もちろんそうだと思うんですよね。

それで、このコロナだけでもないなというふうに見て一言言いたいんですが、やっぱりコロナ前インバウンドってのは非常に大きかったんですよね、中国の経済がよすぎちゃって。それでガンガン来て狸小路も 18 時になつたら満杯になつていましたよね、日本人見えないくらい。それが今現在中国ちょっと下がり気味になっているから、見ているとやっぱり台湾系が多いというのと、香港系が多いというのと、東南アジア系が多いんですよね。イスラムって簡単に括るのおかしいかもしねいけどそんな感じで入園者を見ているのかな。それから、大倉山ジャンプ台の方もですね、もう 7%も 8%も伸びていますので、くらまる号と連携しながらやっているということなんですが、その要因も今後見ていく必要があるのかなというふうに思っています。さらにインバウンドが増えれば、もっとまた新千歳空港の国外からの入りが良くなりますからね。

それともう 1 点はですね、この 2 ページ目の動物園応援基金の関係で 1,700 万円を今年度経費として計上しますよと。主な用途については修繕改修費とこれから説明があるさっぽろの動物園ステップアップ制度の方に使うということなんですけど、この数字見ると、10 年度までの 5 年間の中で当初今まで積立したのを初めて取り崩すということで慎重に取り下ろして 1,700 万円ということなんだけど、それが 2 年目 3 年目も大体この金額でということで計上しているから、支出については 2000 万レベルで今後いってるんですね。そしたら一番下見てもらって単純な言い方をして申し訳ないんだけど、要するに 11%か 12%しか 1700 万円というのは計上していないから、これ貯まる一方なんですね。10 年度になって逆に多くなっているんで、だから本体で使う予算の歳出ですね。歳出はさっきオランウータン館も含めて経費が今回はゼロになりましたからね。ここに経費があるんだけど、やっぱりこの大きな北海道を代表するという日本を代表するような動物園ですから老朽取替だと簡単に言えば当初よりも修繕費ですよね。そちらの経費がますます増えるんじゃないかなというものについては若干説明していただければいいんですけども、そういうことから、予算に計上するところの経費、動物園整備費ですよね。これは少しでもたくさんあればいいですね。そういうふうに言つたら、この取り崩す方がもう 11%か 12%ぐらいですからここにちょっと考えようがあるのかなという視点であります。

それで、この後の資料説明の中で経費の増加傾向とか、この後説明する 2 次計画から 2 次計画の第 4 章の中で施設整備について説明あるんですよね。その中で経費の部分を若干説明していただければそれで済むのかなと思っています。参考にしていた

だければ。

●吉中議長　はいどうもありがとうございます。他はいかがでしょうか？よろしいでしょうか？それでは今いただいたご質問といいますかご意見は後ほどの中身の方でまた意見交換できればと思います。

では続きまして次の議事に移りたいと思います。円山動物園ビジョン2050第1次実施計画の取り組み結果についてということでこちらもまず事務局からご説明をお願いいたします。

●事務局（石田推進係長）　推進係長の石田でございます。

ビジョン2050第1次実施計画の取り組み結果についてでございますが、第1次実施計画は昨年度、令和5年度で5年間の計画期間を終えたところでございます。

資料3に沿って計画期間を終えました1次計画の結果についてご説明させていただきますが、1次計画におきましては計画の進捗管理につきまして、この資料の一番左側、重点項目でございますが、保全、教育、調査・研究、リ・クリエーション、動物福祉の5つの項目について、それぞれその隣にあります数値目標を設定し、計画最終年度であります令和5年度までに達成することとしてきたところでございます。

この資料につきましては以前もの会議でもご指摘いただいておりましたが、目標以上の達成ができたものは濃いオレンジ、目標の7割以上到達したものを薄いオレンジで目標の7割未満だったものを青という形で色分けさせていただいております。

それではまずは保全の項目についての結果ですが、飼育展示していく動物種の考え方に基づく推進種や希少種の繁殖種数を累計で10種とすることを目標としておりましたけれども、2022年度にはヒメトガリネズミ、昨年度2023年度にはアジアゾウの繁殖に成功しております、累計15種の繁殖を行ったところでございます。目標を大きく上回ることができたと考えております。

続きまして、生息域内保全活動の実施回数。こちらにつきましては外来生物の駆除活動ですとか、保全に向けた調査を行うといったものですが、2023年度はコウモリのねぐら調査や天塩川でのトガリネズミの捕獲調査などを開催いたしまして合計49回の保全活動を行ったところです。数値目標は5年間の平均で20回といったところ、結果といしましては2018年度から2023年度までの平均が100回ということですので、こちらも目標を大きく上回る活動ができたと考えております。

次に教育の項目でございます。数値目標につきましては、園内における解説やガイド実施数と総合学習の受け入れ人数の2項目を設けたところです。こちらにつきまし

では、やはり 2020 年度コロナにより様々な活動が大幅に縮小されたり休園していたりということがありまして、参加者数ですか実施回数といったものが大幅に減少したところです。以降 2022 年度から回復傾向にあり昨年度も同様ですが、残念ながらちょっと目標までの到達には至らなかったという結果になっております。

続きまして調査研究の項目についてです。まず 1 点目の学会等で調査研究内容を発表した回数ですが、目標数値目標は年間 5 回というところ、2023 年度は飼育技術者研究会ですか、学会・会議等で合計 8 回の発表報告を行うことができました。一方、調査研究内容の情報発信、その下の項目につきましては、なかなか人数集めての報告会ですかシンポジウムといったものが、コロナ明けではありましたけれどもちょっと回復途上にあったという影響などもあって、昨年度は 3 回の実施にとどまったところでございます。

続きましてリ・クリエーションの取り組みについてでございます。

1 点目の数値目標、冬季来園者数でございますけれどもこちらにつきましても 2023 年度は前年度に比べ増加しておりますがやはり大幅に減少していたという影響もあってちょっと目標達成には至らなかったところでございます。

その下来園者数、来園者の満足度でございます。

こちらは毎月、来園者 100 人にアンケートをお願いしておりますアンケートを配ってそれにご回答頂いているのですが、その中で、そのアンケート結果として満足しましたかという項目がありまして、毎年向上するということを目標に設定しております。

こちらにつきましては 98%、97% というような非常に高い水準で推移できたものというふうに考えております。

最後に動物福祉の項目でございます。

まず一点目、ハズバンダリートレーニング実施種で累計 35 種を目標にしておりましたが、この目標数値には届いておりません。2023 年度はワオキツネザルのトレーニングに成功したというようなこともありますし、累計では 26 種のトレーニングを行うことができました。当園といたしましては行うべき種に対して、適切に増やしてこられたのではないかというふうに考えております。

そして最後、動物福祉評価でございます。

こちらにつきましては、計画最終年度であります昨年度までに、動物福祉評価の実施を完了するということを目標にしておりまして、昨年度、動物福祉評価 1 回目を実施させていただきましたので、目標達成できたものというふうに考えております。全体として、なかなか数字が届かなかったところもありますが、保全活動ですか動物

福祉といった円山動物園が取り組みの根幹としている部分については一定程度成果を上げてしっかり取り組みを行ったものというふうに考えております。

1次計画ではこういった数値目標を設定しておりますが2次計画についてはこの後ご説明させていただきますが、数字ではなく、質の目標設定ということで新しい目標を設定させていただいたところでございます。

事務局からは以上でございます。

●吉中議長 はい、どうもありがとうございました。資料3についてご説明いただきました。いかがでしょうか？何かご質問ご意見ありましたらお願ひいたします。
はい、お願ひします。

●細矢委員 教育のところでお聞きします。今日、園に入りましたら沢山の小学生が総合学習だと思いますが、しおりを持って公園内歩いていました。先生も一緒になって。そこにあんまり園の職員の方が携わってないように見受けられました。その中で例えばここで総合学習等の受け入れ人数は8514人で7割以上の達成率ですよというふうにうたっています。その上に園内における解説やガイド実施数も1192回で7割以上ですよと。

もし、ここをもうちょっとうまくリンクさせて、総合学習のところで園の方のガイドをつけるような形で説明をしていくとともに目標もそれなりに達成できるでしょうし、より動物園を深く知ってもらうという。そう意味ではやっぱり先生も専門家じゃないのでキリンさんいるねとかってね、カバさん見に行こうねとか何か、ただその上っ面だけ、動物がいるよということだけしか見てないような感じがしました。

ですからそこで少しでも園の方に携わってもらえば、このキリンの首の骨は何個ありますよ、とか。人間と同じ数ですよ、とかって。それをちょっと教えてあげると、より動物を身近に感じることができるのかなというふうには思いました。

●吉中議長 はい、大変貴重なご意見どうもありがとうございます。
事務局から何か現時点できることやっているよとか、もしあればご紹介いただければと思いますが。

●柴田円山動物園長 ありがとうございます。大変貴重なご意見でございます。先生方は事前に現地の視察をしていただいて、そしていわゆるワークブックをお作りになられております。そのときいろんなご質問をいただいたり、資料ということで先生方

は事前に綿密に、時間割を作つて全部回るような形で皆さんを引率されているようにお見受けしております。

ちょうどタイミングよく私どもがいたり、そしてグループワークをやっていたりというときは、ご質問をお子さん方からフリーでいただけますので、そういうときにはしっかりとご対応させていただくようにしたいと思っております。今からシーズンなものですから、沢山のお子さんがお越しいただいて、できる限り私どもは、声かけられたらご質問に対して回答したり、解説をさせていただくというふうにしております。

それからちょうどガイドの時間に合いましたら、立ち止まって聞いていただいて、と思います。先生方も全部見てもらいたいということでかなりのタイトスケジュールで回っているようにお見受けいたしますけれども、事前にご相談いただきましたら、うまい形でリンクをさせていただこうと思います。

よろしくお願ひいたします。

●吉中議長 はい、どうもありがとうございます。

ぜひ今後の話だと思いますけれども、考えていただければと思います。

ありがとうございます。

その他いかがでしょうか？

はい、お願ひします。

●相原委員 相原です。どうもありがとうございます。

拝見させていただいて、やはりマンパワーも含めたリソースが限られる中で、すごく活発に活動をされていたんだなということが改めて確認できました。

その中で私としてもやっぱり園としてコントロールできるものと、コントロールが難しいものというのを分けた中で、そのコントロールできているところというのは非常に、一番上にある繁殖種数とかですね、保全に関する実施回数とか、あと調査研究に関しても内容を発表した回数とかというのを、ハズバンダリートレーニングに関しましても目標の7割以上到達という形でちょっともう少しきれいにならなかったんじやないかみたいな形で読めますけど、それに関しましても改めて35種という結構挑戦的なものを会議の中で着実に実績を重ねられてきたということをご報告いただいて、なるほどなって。その中でこの表を見たときに、こういう形で調査研究、保全活動とか福祉に関して一生懸命やった中で、私もその目標の7割未満って色が変わっているので、これらに目がいってしまって本当やっぱりそういう意味では調査研究内容の情報発信という

欄なんですけど、ここって発信する内容はきっとたくさん溜まっている一方、当初目標の5回というものに対しては到達できなかつたと。ずっと3回ということでやつてきたと。これどういうふうに評価すればいいというふうに今思われていますか。

本来もっとこういう活動をいっぱいやつているから、情報発信ってもっと回数できたんじゃないのかって思われているのか、それともマンパワーとかも含めてこの3回を毎年継続するというのが現実的なものだったということに気づいたとか、何かしら現時点での評価というのを教えていただければというふうに思います。

●柴田円山動物園長 ありがとうございます。調査研究の発信に関しましては、大学含め研究者の皆様との共同の中身ということで、ある程度規模の大きなものをカウントするようにしています。

その他にも細々とした共同研究というのは日々やっておりまして、その部分はカウントしていないところでございますが、大きくワークショップ形式、講演会も含めカウントしている状況にあります。

ですから、この発信についてはちょっと指標の設定として曖昧な部分があったかもしれません。

ホームページでこれから公開をしっかりしていきたいと思います。

●相原委員 ありがとうございます。

●有坂委員 今の話に関連し、大きいものという基準が曖昧だというお話をしたが、年に5回ということは、2ヶ月に1回ぐらい大きいものをやらないといけないって話になりますよね。なかなかハードルが高いのかなと思います。でもきっと次の新しい目標で何か変わる可能性があるのかもしれないですが、もうちょっと違う基準でもいいのかなと。発信するのに文字などの情報として残すということも非常に重要だと思います。いろんなことやってらっしゃるから、報告した回数にするとか。ハードル高くしてしまうと、できることもできなくなってしまいそうなイメージを持ちました。3回で十分だと思うぐらいです。ここが青なのがちょっと不思議なぐらいの感じがしましたので、意見というか、感想でした。

●吉中議長 はい、能代委員お願いします。

●能代委員 能代ですけども、教育にありますガイドの実施は、これは市民ボランテ

ティアさんのガイドは含まれていないということでいいんですね。

●事務局　はい。

●能代委員　それでちょっと要望というか、大変かと思うんですが、市民ボランティアさんですので、なかなかこちらの方でご指導されるのは難しいのかとは思うんですが。申し訳ないですがちょっと質が低いというかですね、何回か聞いたんですが、この程度のことをわからぬでボランティアさんでガイドやっているのかなというのをちょっと感じたことがあったものですから、やっぱりこの辺のところはボランティアさんであったとしてもですね、ガイドさんなわけですから、ある程度レベルというのを保障された方がいいのではないかなというふうに思いました。

●吉中議長　はい、どうもありがとうございます。

ボランティアの方の活用、どういうふうにもっと協力していただけるかというのは多分また、第二次計画をどう進めるかの中で、ご提案いただければいいかなと思いました。有坂委員のご提案もまた後ほど議論できればと思います。

その他、いかがでしょうか？河合委員お願いします。

●河合委員　河合です。調査研究のところで実はこの中に多く私も関わっているのでちょっと内情がわかるんですが、学会等で調査研究内容を発表した回数という方に含めている報告と、調査研究内容の情報発信という方に含めている報告は、結構重なりがあるというか、結構専門的なことを報告して大きな発表会みたいなところで報告している内容だと思うんです。こっちの情報発信の方はもう少し、例えば園のニュースペーパーでお知らせしましたよとか、ホームページで公開しましたよとか、そういうふうなもので、一方こっちに含めて、このシンポジウムでの報告とかはもう十分学会等で報告した内容の方に入るんじゃないかなというのが一点と、もう一つがもしそのホームページとかニュースペーパー等で報告する場合に気をつけなきゃいけないのが、学術的な内容を含んでいる場合に先にそっちで発表しちゃうと、論文で発表するのが二重投稿というふうに捉えられてしまう場合があると思うんです。そのあたりがやはりちょっと動物園として舵取りは難しいと思うんですけど、ちょっと携わっていることでちょっと懸念したところがあったので、そういうところはちょっと気をつけつつ、一般向けの情報発信と専門的な情報発信ということで区別してこの学会等とかじやなくて専門的か一般向けかみたいな形でカウントする方がおそらくいいのかなと。

ただ、その二重投稿にならないように気をつけていただいた方がいいかなと思います。

●吉中議長 はいどうもありがとうございます。

そもそもこの指標が少し曖昧だったかもしれないなというようなご説明もありましたし、今のご意見も踏まえて第二次実施計画の進め方のところでまたご意見いただければと思います。その他よろしいでしょうか？ではとりあえずこれは一旦ここでおきまして、次の議題、これからの方針、第2次実施計画についてご議論いただければと思います。その前に事務局からご説明をお願いいたします。

●事務局（石田推進係長） はい。第二次実施計画について説明させていただきます。

今年1月の動物園会議でご審議いただきました二次計画につきまして、先月6月に無事策定をさせていただきました。前回会議でお示しさせていただいた計画案から、修正点と計画に基づく今年度の取り組みについて、今日はこの場でご説明をさせていただきたいと思っております。

まず資料ですが、二次計画につきましては資料4-1と、冊子になっております第二次実施計画という冊子、あと資料4-3のこの3点が2次計画における資料でございます。まず修正点についてのご説明ですが、本書の方ですね、冊子の方をご覧いただけますでしょうか。

前回の会議で、計画案について専門用語が多くてもう少し丁寧な説明が必要なのではないかといったご意見をいただいておりました。この点につきまして、冊子の巻末69ページ以降に用語集を追加させていただいておりまして、ここで専門用語ですとかそういうものについて詳しく説明をさせていただくことといたしました。

またもう一点ですね基金、先ほどお話もありました応援基金を含めた寄付金収入の状況についてもう少し市民の皆様に知ってもらって理解してもらうためにも、しっかり説明を記載した方が良いのではないかといったご意見ももらいました。

この点についてはですね本書の中で収入にかかる各ページにおきまして寄付金収入ですか基金に関する記載を追加させていただいております。

本書8ページをご覧ください。8ページでは入園料などを含めた全体の収入を掲載しておりますがこの下、下段の説明書きに（寄付金については・・）というところを新たに加えさせていただいております。

寄付金については円山動物園の運営費として寄付されたもので、これとは別に令和4年（2022年）からは動物園応援基金が設置されたということで、上の表の寄付金に

については、あくまでも動物園の運営費として寄付された寄附金の収入を載せておりまして、これとはまた別に、動物応援基金への寄付もございまして、そちらにつきましては先ほど予算の資料の中にもご覧いただいたものになります。

続きまして 10 ページをご覧ください。

こちらにつきましては収支差の状況を掲載しておりますが、同じく下段の説明書き、なお書き以下のところを追加しております、令和 4 年度まではふるさと納税による寄附金を一般財源、普通の税金とかと同じような一般財源としていたところ、令和 4 年度以降はふるさと納税による寄附金を動物園応援基金に積み立て、今後の園の施設整備費などに充当することとしたことを追記しております。

最後に 61 ページをご覧ください。

こちら今後の収支差見込みの項目の中で、応援基金の今後の積立額の推計、先ほどの予算の資料と同じものになりますけれども、こちらを掲載させていただいております。

以上が 1 月の会議でいただきましたご意見を踏まえて修正した内容になります、他の項目につきましては修正変更なく、今回計画を策定させていただいております。

続きまして第 2 次実施計画における重点取組分野の数値目標と目標達成に向けた今年度の取り組みについてご説明させていただきたいと思います。

こちらにつきましては資料 4-3 をご覧いただけますでしょうか？

こちらの数値目標につきましては、本書の 58 ページの目標をそのまま抜き出したものになります。そしてその右側に各目標に対する、今年度どう取り組んでいくかという事柄を記載させていただいております。

まず一つ目の動物福祉分野にかかる今年度の取り組みについてでございますが、こちらにつきましては本日の議題の 6 番、動物福祉評価の進捗状況についてと内容が同じものになっておりますので、この後議題 6 の方でご説明させていただければと思います。

次に 2 点目、保全分野の数値目標、放鳥・モニタリングするオオワシの累計数：5 羽という目標を保全分野では設定しております、こちらについての今年度の取り組みでございます。こちらにつきましては令和 7 年度に第 1 回目の放鳥の実施を目指し、今年度は関係者、放鳥する自治体、地方の方ですとか、国などとの合意形成をまず目指してまいりたいと。さらに放鳥に当たっては事前にトレーニングを行う必要がございますが、トレーニングゲージの天井部が多数破損しているところがございまして、修繕が必要になっております。そういう修繕の費用ですとか、さらに放鳥した後にモニタリングをしていくところで、取り付ける GPS であったり、それをト

レースするための委託の費用、こういったものについて国や関係団体からの助成金などを活用しての資金調達ができないかということも併せて今年度検討してまいりたいと考えております。

続きまして保全分野の2項目目でございます。認定動物園等への研修会実施件数年2回という目標設定でございます。

研修会は認定動物園に対して行うということでステップアップ制度の中で定めております。一方、現時点では認定となった動物園はございませんので、今年度における研修会の実施は現時点では未定でございます。

この3月に認定動物園支援事業部会から豊平川のさけ科学館の準認定施設への登録について妥当であるという答申をいただいておりまして、同月さけ科学館を準認定施設に登録させていただいたところでございます。この後そちらのご説明もさせていただきますが、そのサケ科学館はこのあと認定を目指し、飼育マニュアルを作成していく予定でありますので、当園といたしましては作成に関する必要な助言ですとか、情報提供を行うといったことで連携協力してまいりたいと考えております。

また、このほか、今後認定動物園を目指す市内の1施設と、まずは今年度の準認定施設への登録に向けて協議調整を進めるといったことで話をしておりますので、そちらについてもしっかり動物園とお話をていきたいと考えております。

続きまして教育の分野でございます。こちらにつきましては、園内イベントへの参加を通じて生き物と人との関わりの大切さを理解した人の割合100%を目指していくことで、イベント参加者からアンケートをとって理解度について確認してまいりたいということでございます。こちらにつきましては1次計画では何人参加したかとか、何回研修会を実施したかというその数的な目標を置いておりましたけれども、その2次計画全般についてですが、数ではなくて質的な目標設定にしていくところで、人数ではなくてイベントの目的が生き物との関わりの大切さであったり、環境について考えてもらうと言ったところに目的があるというところで、この教育分野での数値目標につきましては生き物と人との関わりの大切さを理解した人の割合を目指してまいりたいと考えております。こちらの目標に対しまして、今年度の取り組みですけれども、園内イベント等において、生き物と人との関わりの大切さへの理解を進めるプログラムの提供を行ってまいりたいと考えております。

具体的にはこちらに書かせていただいておりますが、動物観察プログラム「今日からザリガニ博士」を月に1回実施しております。この後7月と8月に合計6日間予定をしております「子どもの1日飼育係」といった教育イベントを通じて、ぜひ生き物と人との関わりの大切さをご理解いただきたいと考えております。

続きまして調査研究分野でございます。

こちらにつきましても1次実施計画の中で先ほど有坂委員からもご意見をいただいていたところですが、ご指摘の通りですね、回数というところではなくて、円山動物園としてはその大きいこと、専門的なこと、一般向けのこと、様々な調査研究を行つていて、いろいろな形で発信をさせていただいているところでございます。

まずその目的というのが、やはり皆様にしっかり知っていただくとかそういうことになりますので、2次実施計画におきましては、我々が行っている調査研究についてしっかり見ていただく、知っていただくといったところを目標にするために、ホームページ掲載の調査研究報告書等の閲覧回数を毎年増加させるということは、質的なですね、調査研究するだけではなく、それをしっかり見ていただき、知っていただくという目標にしております。

今年度の取り組みといたしましては、まず見ていただくホームページがまだないのをホームページを作成し、報告書等を適宜適切に更新していくことで、閲覧回数の増加を目指してまいりたいと考えております。

続きましてリ・クリエーションの項目でございます。

こちら2点目標がございまして、1点目が円山動物園を他の人にもすすめたいと答えた人の割合75%ということで、これは月に100名の来園者の方にアンケートをとっているものの数字でございます。

こちらにつきましては他の人にもすすめたいとかあるいは動物園に来て非常に興味深かったとか面白かったとか、そういった思いを持たれた方が他の人にもすすめていただけるのではないかといったところで、来園者の方に円山動物園の魅力をしっかりと伝えるべく、円山ZOOガイドといった飼育員が行っている取り組み、各種教育プログラム、園内ガイドといったもので円山動物園の魅力をしっかりと伝えていきたいと考えております。

その下、円山動物園にまた来たいと回答した人の割合79%いうところですが、こちらにつきましては、来園者の方の観覧環境の充実を図って、また来たいと思ってもらえる方を増やしていきたいというふうに考えております。

具体的には観覧環境の充実ということですけれども、園内の掲示板ですとか、リーフレットといったものを更新、見直しをしてスムーズに観覧いただけるとかそういうもの、あとはご意見箱やホームページの問い合わせフォーム等などで来園者から多くの声がご意見寄せられているところです。私どもとしてはその中で改善できるものを速やかに改善していく。例えば「まるっぱ」というお子様が遊ぶ遊具が置いてあるところがあるんですが、あそこなんかでもその遊具をちょっととりあって上の方で取

り合って危ないといったようなご意見をいただいたところ、譲り合ってちゃんと観覧してくださいという看板を設置したりという、日々のそういう大きな取り組みではないですけれども、そういった取り組みの中で観覧環境の充実を図っていきたいというふうに考えております。

なお、この二つのその数値目標ですが、令和4年度の数値から毎年他の人にもすすめたいは毎年2%ずつ増やしていけたらと。また来たいと回答していただいた人の割合というのは毎年1%ずつでも、少しずつでも増やしていけたらということでこういった数値目標にさせていただいております。

続きましてその下、基盤整備の分野でございます。

持続可能な運営手法の導入検討いうところで、円山動物園としては入園者数の目標は置かないということでやっておりますけれども、やはり物価が上昇して飼料代が高騰していると。あとは光熱水費も非常に上がっているというような、そういう社会的な状況、動物園を取り巻く経営環境の変化等がありますので、今後も持続可能な運営をしていくために円山動物園の運営のあり方についてしっかり検討してまいりたいと。今年度については他園での取り組みなどというものもまず参考にさせていただいてそういうのをまずしっかり調査していきたいと考えております。

続きましてその下、施設整備でございます。

園内施設の修繕必要件数73ヶ所ということで、令和4年度は169ヶ所あったところ最終的に2028年度までには73ヶ所にしたいということでございます。こちらについては日々老朽化により、また新しい修繕しなければいけないものが発生している状況ではございますが、各案件の優先順位、修繕方法等を検討して決めていって適切に修繕を進めてまいりたいと考えております。

続きましてその下、施設整備でございます。

施設保全計画の策定ということで先ほど松原委員から応援基金の活用の仕方のところで老朽化に伴う修繕の費用にというお話をいただいたかと思います。

先ほど申し上げました通り修繕については元々古くなってきている施設も多いので新しいものが次々出たりというところでございます。そういった状況も踏まえまして、まずはその施設の保全計画というものをしっかりと作っていく必要があるだろうということで、それは2次計画の本書の方でも掲載させていただいているところでして、52ページからでございます。

52ページの方で今後の施設整備についてということで掲載をさせていただいております。その次のページ、53ページで、施設保全計画の策定というところで、長期に渡って安心、安全に安定して施設を使用できるように、まずはその施設の保全計画を策

定して、適切な点検保守や、予防的な改修に関する具体的な取り組みを計画的に進めていきたいということを考えております。今年度におきましてはまず保全計画の策定に当たって、外壁や屋上防水、ポンプや照明といった設備につきまして、まずその保全計画策定前の劣化調査を行って、どの程度劣化しているのかとか、そういう調査を行ってその結果を踏まえて、来年度の保全計画の策定に進めてまいりたいというふうに考えております。

最後、施設整備、北海道ゾーン基本方針策定に向けた調査研究の実施というところでございます。こちらは本書 53 ページ、54 ページにございます。

円山動物園ではこの 2 次計画におきまして北海道ゾーンの整備について基本方針を策定するための調査検討を進めてまいりたいと考えております。

北海道ゾーンは 53 ページにありますが北海道の野生動物を総合的に展示して魅力や生息環境、野生化で置かれている状況などを来園者にわかりやすく伝えて、道内並びに市内の身近な動物の保全に資することを目的にした施設にしたいというふうに考えております。今年度におきましては、まずその基本方針の策定にあたって大学等にご協力をいただきながら調査研究を進めて、北海道ゾーンのコンセプトや取り組み内容、どういったものを展示して動物種を展示するのか、そして展示方法はどのようなものなのかといったところをまず検討してまいりたいと考えております。

動物園応援基金をどう使うかというお話をいただいておりましたけれども、先ほどの表を見るとどんどん積み上がっていって、取崩額が少なくなっているというところはあるんですが、今後は例えば北海道ゾーンを作るにあたって非常に多額の費用を要するというところもありまして、こういった新しい施設が、円山動物園の目指す動物福祉の向上、良好な動物の福祉の確保に繋がるような施設になるための費用であり、保全に繋がるような施設になるための費用、に充てていきたいと考えています。さらには通常のその老朽化に伴う改修といった部分ではなく、老朽化改修にプラスしたその動物福祉の向上に資するような施設改修につきまして、今後、基金を使ってまいりたいというふうに考えております。2 次実施計画についての説明は以上でございます。

●吉中議長　はい、どうもありがとうございました。

実施計画が無事策定されて 6 月先月公表されたということです。それに基づいて今年度どういう取り組みを重点的に行っていくかというご説明だったかと思います。

何かご意見ご質問ありましたらお願ひします。

お願ひします。

●細矢委員 概要版第2章の社会情勢の変化というところで、上から3番目ですけれど。「国際情勢の不安定化により燃料や食料の価格が高騰」って、この食料、燃料の価格高騰の原因が国際情勢の不安定化だけのように掲げていますが、決してそんなことはないと思います。

ご存知のように為替ですか気候変動ですか、いろんな条件が重なっているのかなと思います。こういう表現をするのであれば「等」とかの表現でどうでしょうか。

あと、確認ですけれども、先ほどのご説明の他に北海道ゾーンの整備というのが入っていまして、猛禽舎にて飼育しているオオワシとかシマフクロウ、オジロワシなどの猛禽類をそこに集約しますよというふうになっていますが、このオオワシですかシマフクロウ、オジロワシの繁殖をさせてそれを自然界に戻すという取り組みですけれど。

オオワシについては取り組みをされていると思いますが、シマフクロウについては、自然界の中で二つ卵を産んでいたら飼育放棄される一個を、動物園で繁殖させて、それを自然界に戻すという取り組みまで考えてらっしゃるのかお聞かせ願いたいと思います。

●柴田円山動物園長 ありがとうございます。

シマフクロウにつきましては、環境省の方でも長年、野生の保全と生息地保全と、復帰のための巣を設置したりという、研究者の皆様がそれぞれ分担をされてということがありますので、展示を伝える部分で役割を担いたいというふうに思っております。そのために昨年度も、生まれた個体を他の動物園に展示目的で移動してもらいましたので、そういった意味でシマフクロウの素晴らしいところを紹介するという役目でやりたいと思っております。

それからオオワシもオジロワシもということですけれども、基本的にはオオワシの野生復帰もしくは補強のための何か役割を担えないかということで、調査研究として今までずっと進めてきておりまして、研究者の皆様とこれから野生の復元もしくは補強についてどういう進め方がいいのかというのをしっかり討議させていただいて思っており、決して急がずにと思っております。

●吉中議長 はい、どうもありがとうございます。

国が策定している保護増殖事業計画というのがありますので、その中で、希少種、動物園の役割ももちろん重要なものがあると思いますので考えていただければと思い

ます。ありがとうございます。

有坂委員お願いします。

●有坂委員 今のことに関連して5羽というのがどういう感じなのか、なぜ5羽なのかを説明いただけますとありがとうございます。

●柴田円山動物園長 冊子に示した36ページ、オオワシのヒナを写真にさせていただいておりますが、これを作った時点では2024年から試験放鳥ができるべきだなというふうに思っておりました。ですから年に1羽ということになります。2024年は残念ながらちょっと進めることができなかったので、来年に向けて試験放鳥含めてやれるかどうかというところでこれからまず施設の修繕も含めてさせていただこうと思っております。

ただ放鳥に関しては、様々な地域のご理解ですとか研究者の皆様の合意が必要なことなので、無理をして進めるというよりも本当に必要だというご理解、それから今回繁殖地のロシアじゃなくて道内で放鳥を試行させるという取り組みをご提案しております。それはロシアとの連携がなかなか今は難しいということで、道内で放鳥して、また繁殖地に渡ってまた戻ってくるのかといった試験的な研究を研究者の皆様とさせていただくことができるかどうかというところで、今検討をさせていただいております。

●有坂委員 ありがとうございます。そうすると、この目標が5羽というのが目標値として妥当なのかということが若干心配です。別の評価軸の方が実施されていることをきちんと評価できるのではないかなと思いました、何か別の評価軸を設定するのはどうなのですかね。

●柴田円山動物園長 ありがとうございます。

今回オオワシのプログラムというのが2009年スタートの構想で、もうその当時から5000羽という希少の状況がむしろ良くなつてはいないと思うところでございまして、順々に野生復帰施設のトレーニングケージで普通種に関するトレーニングを試行して、トビでの放鳥を大学と連携して取り組みをずっと重ねてきているのですが、もう待ったなしの部分があるのではないかということと、私どものやる気を、頑張るという意味で、意思として掲げられればというふうに思いました。

ただ、年に1、もしくは複数になるかもしれませんけど実際にやらなければならな

いというこの5年になります。

●有坂委員 ありがとうございます。先ほど「質的な」という言葉があったと思いますが、これだと定量的なものになってしまうと思います。質を測るというところの「1羽は」という気持ちはすごくよくわかるのですが、モニタリングの継続など、ちゃんとやっているということが見える化されるような評価軸にされてはどうか。それが何なのかというのが非常に難しいというのは承知の上なのですが。

●柴田円山動物園長 ありがとうございます。

今の状況でそのようないただいた意見も踏まえた評価の仕方を検討させていただきながらお伝えしていきたいと思います。

●吉中議長 はい、どうもありがとうございます。

一応実施計画という形で策定された中にこういう目標数値が出ていて、それはそれとして、毎年の実際の中身の評価の際に、数字にとらわれず、今園長さんおっしゃったように、研究者とどういう調整をしていったのかとか、どこに課題が残っているのかとかそういうことをまたお知らせいただければいいんじゃないかなと思いました。その他いかがでしょうか？滝口委員お願いします。

●滝口委員 北海道大学の滝口でございます。詳しくご説明いただきましてありがとうございました。私、以前も申し上げた記憶があるんですけど、この収支バランスが結構気になるという件ですけども、先ほど来園者数の目標みたいなものはあまり設定しないようなお話があったかと思うんですけれども、2025年ぐらいから横ばいでそれに沿う形で、資料の4-1を見ていますが、収入についても横ばいということで収支バランスとしての入園料のパーセンテージの目標とかそういうものは求められていないということなんでしょうか？

といいますのは、基盤整備だとか施設整備だとかやはりお金がどんどんどんどんかかりますし、先ほど物価の高騰だとか、そういうことも取り上げておられましたけど、実際工事費とか建設費をものすごく上がっていてですね、今年度73ヶ所の修繕をするということですけれども、結構予想以上にお金がかかる可能性が高いのではないかと思うんですよね。結局は赤字になっても、市の施設という意味で、税金で補填というか、税金で運営されるということで、それほど入園料の自助努力というか、そういうところが求められていないというのであれば大きなお世話なのかもしれない

ですが、やはりもう少し収入を増やすことで、できることも増えるかと思いますし、動物福祉ですとか、ウェルビーイングの観点からしても、現状の73ヶ所の修繕が本当に適切かどうかというのは、また外部の意見とかを踏まえると、もっとより良い環境に、ただ老朽化ということではなくて、動物の福祉の観点からすると改善した方がいいんじゃないかというような意見もあるかもしれません。

そうなると、やはり施設整備にもっとお金がかかってくることが予想されるのでもう少しやっぱり収支を増やす努力が必要なのかなというふうに感じます。結局は税金で補填されるということは札幌市の方の税金ということなわけですから、やはり入園料にインセンティブを設けるですか、そういうのは妥当なんじゃないかと思うんですね。

札幌市の方とそうでない方の入園料が違うというのはあってしかるべきだというふうに、税金が補填されているわけですから。そういうふうに感じました。以上です。

●柴田円山動物園長 ありがとうございます。

入園料につきましては、令和2年に値上げをさせていただいて、600円から800円という形で、その後の収支バランスといたしましては、最新の状況ですと、分母をいわゆる施設整備というのはちょっと桁が違うということで除いた、運営費、分子を、入園料としますと、約6割ということで、これも元々からは改善をされてきているところでございます。それだけでいいのかということありますので、基金の話、それから収入をどのような形で入園料も含めていただく形がいいのかというのを、今年度持続可能な運営手法の導入検討ということで調査を受けさせていただこうと思っております。

ですから決してその乖離があることをよしとすることではなくて、少しでも差を縮めていくような形でのあり方を、市民の皆さんや市民でない皆さんも含めて、どのようなご協力・ご理解をいただけるか、ということを検討してまいりたいと思っています。

●吉中議長 ありがとうございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

その他いかがでしょうか？有坂委員お願いします。

●有坂委員 調査研究のところで、「ホームページの閲覧回数」という指標があると思いますが、これは毎年増えていくことが目標になるということですか。

報告などいろいろな情報発信をしていけば閲覧回数は、通常増えていくだろうと思

いいますが、一方で、自分としても最近の課題なのですが、SNSなどを使い、やり方によっては閲覧回数を増やすことは多分できるのでしょうかけど、それが本当に意図していることなのかとかということがすごく悩ましく感じるときがあります。中身がどうであれ、バズらせればいいという感じのやり方を最近よく目にします。閲覧回数を単純に伸ばそうと思うと、すごい人気のある動物ばかり何か載せるとか。インスタフォローしているんですけど（動物園の）、「いいね」がつきやすいか動物がいるわけですよね。そうすると、人気のない動物は上げないのか？みたいな話になってきませんか。そんなことはないと思う一方で、先ほどの話と少し繋がるかもしれません、閲覧回数が単純に増えればいいのかどうかというのが悩ましいなと思って見ていました。繰り返しになりますが、やったことがちゃんと評価されるようにできないですかね。

やってない訳ではないので、やったことがちゃんと評価されるような、活動が伝わるような指標というのが、別にあるのではないかと思った次第でした。ご検討いただければと思います。

●柴田円山動物園長 ありがとうございます。

調査研究を動物園がして発信して、これを引用いただけるというイメージで掲載をさせていただいたのです。確かに突然上がったらそれはちょっと。気をつけます。ありがとうございます

●吉中議長 はい、どうもありがとうございます。本編の58ページの目標定められた目標。この実施計画の完成年度での目標というのがあげられていますけど、それに向けた行動目標でありますとか状態目標みたいなのを個別にいろいろ前段のところで書かれてあると思うんですよね。

ですから、これから毎年進捗をモニタリングしながら評価しながら進められる。その結果、最終年度にこういう数値が得られるかどうかということだと思うんですけど、毎年毎年あるいは日々の評価の際に、多分その前段に書かれてあるようないろんな行動目標のことを見ながらされるんだと思うので、そういう中でホームページについてもここでも書かれてありますけど、統計データの参照ということなので、単に数だけじゃなくてどういうページならどういうやり方をしているのかとか、そういう細かい検討を、もうされていると思いますけど、今後も進めていただければと聞いてて思いました。はい、どうもありがとうございます。

その他いかがでしょうか？お願いします。

●細矢委員 今、有坂委員の言われたことのないように私も感じましたが、ホームページにいきなり調査研究報告書なんて書かれているともう見る気がしなくなります。

やっぱりこういうのも円山動物園として、その動物に関するこういう研究をしています。というのをわかりやすい内容で発信をする方がいいのかなと。何回見てもらいましたとか、先ほど有坂委員が言ったように、ただ面白おかしく提示すると確かに上がるかもしれないけど、それは本来の目的じゃないと思います。

ただやはり大上段に構えてこんな研究したんだから見てよということだと、見る方は難しそうだから嫌だというふうに多分拒否反応を起こしちゃうだろうなと思います。例えば、ゾウはこういう生態をしているので動物園としてはこういう研究をして環境を整備しています。たとえばその研究をもとに砂をいっぱい入れたとか、何センチ以上砂を敷いたとか。そういうのをこども相談室みたいな、そんなイメージのものを出していけば、もうちょっととっつきやすくなるのかな。やっぱりここは回数ではなくてあくまでも内容ですかね。そこに入り込んだ方がいいのではないかと思う。

●吉中議長 どうもありがとうございます。はい、有坂委員お願ひします。

●有坂委員 有坂です。すいません。細矢委員ありがとうございます。

報告書を報告書としてちゃんと載せてあること。おっしゃる通り、それこそ万人が、子どもから大人まで、どんな人が見てもわかりやすい内容にするというのは1つ大事なことだと思います。同時に、きちんと報告書という形で出していくことが、別の大事な部分だと思います。恐らく、役割が違うと思います。でもおっしゃった通りにわかりやすくする発信するというのは本当に大事だと思いますので、その組み合わせでしょうか。回数だけを目標にしないことで、質的な部分に繋がっていくのかなと今ご意見を聞いていて思いました。ありがとうございます、以上です。

●吉中議長 はい、どうもありがとうございます。

すいません、私からちょっと関連して質問させてください。実施計画本編の43ページに調査研究と情報発信の推進というのがあげられていて、それで今、有坂委員それから細矢委員おっしゃっていたようなことと関連するんですけど、2024年には研究成果の掲載に向けたホームページの再構築というのがあげられているかと思うんですね。そういう中でそれを今年度どんなことを考えられているのかというあたりを少し説明していただける割と今のご質問のご意見のお答えになるかなと思ったんですけ

ど。

●事務局（寺島保全・教育推進課長） 今までどういうものを載せるとかどういうページを構成するとかというのも、まだ正直検討中の段階で、今の段階でこういうものにしますというところまではいってないんですけども、今まさにご意見いただいたことを参考にさせていただきながら、わかりやすいという側面も大事ですし、報告書としてしっかり掲載するということも大事だなということをいただいたので、そういったことが伝わるような内容にできたらなと思っております。ありがとうございます。

●吉中議長 はい、どうもありがとうございます。その他、いかがでしょうか？はい、お願いします。

●松原委員 ホームページの関係も含めて、皆さんが言っている内容とほぼ同じなのかなと思いますけど、ホームページを見て僕あたりはね、今日やっているのかやってないのかとか、そんな単純な見方しかしてないんですが、こうやって追っかけていくとやっぱり市民から寄せられたというか、利用された方から寄せられた意見等というのがあって、あれ非常に興味あるんですよね。

その部分では、この資料にもあるように最終的にはリ・クリエーション、あるいは二つあるよね。要するにもう一度行きたいよということと、他の方にリップサービスしたり、伝えたいよって言ったんですね。だから買うぞということから考えると、75%に興味があるわけでもないし 79%に興味があるわけじゃないんですよね。

要するに、伝えたいという人はここに訪れて何がなくて何ががっかりしただと、そんなことを例えばどこかで見ることができるのかということですね。人の捉え方というのは1人1人が個性ですからね。もう何十通りもあるんで。だけどそこにウエイトだとかがあれば、より動物園の5年先10年先に取り組む、あるいは集客も含めて。ある程度みんなで議論できるのかなと思うんですね。その中で人にすすめたいというのは、何がなくて何がということを、これをみんなで議論する素材は見える化した方がいいと思うんですよね。

それともう一つその下の方の、また来たいというのは自分の意思ですよね。だからまた来たいというのは同じく何をもってまた来たいのか。だから最初から札幌に行ったら円山動物園だとか、全国にこれだけの動物園、水族館があってそこに行きたいというのは、北の動物園に行くの初めてだから北海道エリアの動物を見るんだとか。そ

こに俺は関心があるんだってね。

僕の町内会には、オーロラの博士がいるんですよ。要するに、秋冬になったらカナダでやって、北海道ではこの間も新聞に載ったオレンジ色が見れるんですが、ブルーとか、あれはカナダの北に最低限行かないと見れないんですよね。そこにまた魅力があるから行くんですよね。

そしたらこの動物園のやっぱりまた来たいって言うのは簡単に言えば、1回来たのがやっぱり2日行程で来ないと、こんな良い動物たくさんいるのにね、勿体ない。時間だとか高い飛行機代もかかるって。その中でいうとやっぱりそこに着目点だとか、一般論的なあるいは専門知識的な狙いの関心度のある個性の方もいるんですよね。

だからそんな探究心というのは、みんなで議論できる見える化をしていくて、いろんな面ではそれを発展に繋げるべきだなと思うんですよね。ですからここのデータという部分ではそんなことを参考にできればなと思っています。

それからもう一つこの地区、円山競技場を含んでね、この地区は町内会レベルで言うと宮の森大倉山連合町内会になるんですね。そこには小学校も3校も4校もありますし、大体山の麓ですから山に囲まれている自然環境ですよね。

だけど動物園に対してもやっぱり子どもたちが要するに、タオちゃんだとかね、それから今回のオランウータンだとか、それからパーチェだとかいう最新情報がガンガン発信された。たまたま子どもたちの背景は、去年コロナが収まってから、去年から4年ぶりに小学校の運動会が再開したんですよ。それで今年も2年目でできましたよね。そうしたら今年の小学校3校4校の年間スケジュールには、円山動物園に体験教育、学年別にね。その回数が上期下期に恵まれてすごい回数が入ってるんですよね。この近隣の小学校だけでも。

そんなことの中では、たまに交通指導員やってるときには、オランウータンオープնになった何日か後にはですね、本当にセイコーマートにこんな大きな鉄の柱があってここにセイコーマートの社員がいてその柱に登る子どもがいて、子どもたちがオランウータンだね。ちっちゃいよな。それでこれは雄?雌?と言っていて、女の子だと思ってたら子どもたちは知っているので、これは雄だと言ってほぼ間違っているんだろうけどね。ほんと動物が身近だということと、やっぱり関心持ってるんですよね。

オランウータンというのはやっぱり人間に近いというか、何かしら本当に、本当に怖いという感じじゃない親しみ、ファミリー的な発想を低学年は持ってるのかなと思っているんです。

すごく家族的な感じで、誰にオランウータンの話をしても低学年であろうが中学年4、5年生であろうがね、とにかく表情が柔らかく、目もね、口元もね、緩んでるって

言うか。そんな素材が久しぶりに発信されたなということで。身近なジョークでありますけどね。参考にしていただければと思います。

●吉中議長 はい、どうもありがとうございます。有坂委員お願ひします。

●有坂委員 今の松原さんのお話に関連して、北海道ゾーンを今度作られるということですが、個人的に釧路動物園の北海道ゾーンが好きです。釧路動物園ではそこにある自然をそのまま使っています。おっしゃる通り、この周りは自然がいっぱいあるので、そこへも誘導するようなものができるといいかなと思っていました。釧路だからできる部分もあるとは思いつつ、でも、やっぱりこの円山の土地柄、山があって川があって、すごく身近に自然があるので、円山でも見られるんですよ、行ってみてください、と促すような展示と言うんですか、解説の仕方がいいかなと思いました。もし、もう既に検討されているとは思いますが、そんなイメージを持ったので、検討していただければと思います。

●吉中議長 どうもありがとうございます。その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。はい、これから事業の展開にぜひ参考にしていただければと思います。どうもありがとうございます。

それでは次の議事に移りたいと思います。5番ですかね。札幌の動物園ステップアップ制度における準認定施設の登録についてということで、事務局からご説明をお願いいたします。

●事務局（石田推進係長） はい、それでは資料5をご覧ください。

先ほども第二次実施計画の今年度の取り組みの中でもご説明させていただきましたが、札幌市豊平川さけ科学館を3月28日に準認定施設に登録させていただきました。こちらにつきましては2月の認定部会で内容をご審議いただいて、3月に答申をいただいたものでございます。

準認定施設の登録を受けまして、今年度の取り組みについてでございます。それが2番目の今後の支援連携についてということでございますけれども、この資料5、2枚ございまして2枚目が札幌の動物園ステップアップ制度のリーフレットになっております。その裏面をご覧いただけますでしょうか。右上に参考と書かれているところになりますが、その下の表でございます。「認定・登録がされると」ということで、このステップアップ制度におきましては優良認定動物園で、その下の認定動物園、準認定

施設という3区分に分けた認定支援の組み立てになっております。その中で今回さけ科学館は一番下の準認定施設というところで、制度におきましては、準認定施設に対しては、我々札幌市からは広報の支援、あとは情報提供、助言そして保全活動連携協議会というものを認定動物園であれば一緒にこの協議会を立ち上げていろいろ協議をしていくというところなんですが、準認定施設についてはそこの枠組みはなく、会議を傍聴していただいたり、研究発表を傍聴していただくというような、こういった支援の内容になっております。こういった制度の内容を踏まえまして資料戻っていただきまして、今後の支援連携についてということなんですが、まず1点目、広報支援につきましては、もう既に当園のホームページでさけ科学館のホームページのリンクを貼らせていただくのはもちろん、施設名称ですとか所在地といったものについて掲載をさせていただいているところです。ホームページ上、こういったリンクを貼ったりとかそういったことで広報の支援を行いたいと思っております。

続きまして情報提供、助言でございますけれども、こちらにつきましては2次計画の今年度の取り組みの中でもご説明させていただきましたが、さけ科学館は今後認定動物園認定に向けて目指して、飼育マニュアルの作成を予定しております。そのため円山動物園といたしましてはマニュアル作成にかかる必要な助言、情報提供を行っていくというふうに考えております。

最後は(3)その他でございます。準認定施設ということで保全活動連携協議会というスキームにはならないんですが、今後、円山動物園、豊平川さけ科学館そして札幌市の生物多様性担当部署を構成員とした保全活動連携協議会の準備会というものを設置させていただいて、まずはさけ科学館は生物多様性保全に取り組む主体ですので主体と、そして方針の生物多様性の担当部署、我々円山動物園も主体ですがそういったところでですね、まずこの保全についてしっかり意見交換、情報連携をまずはしていきたいというふうに思っています。生物多様性の担当の方では今後レッドリストの改定も見通しているというところなので、そういったことも踏まえまして、まずはそのしっかりと意見交換情報連携をして今後の保全に繋げていきたいというふうに考えております。ステップアップ制度につきましては以上でございます。

●吉中議長　はい、ご説明どうもありがとうございました。

何かご質問ご意見ありましたらお願ひします。お願ひします。

●有坂委員　さけ科学館に飼育マニュアルの作成の助言というか情報提供とか行われることですが、さけ科学館は、魚類の展示が中心ですよね。円山動物園とは全

く違うものを扱っているイメージですが、何かポイント的なことを助言されるのか、助言の内容も少しご説明いただければと思います。

●柴田円山動物園長 有坂委員のおっしゃる通りポイント的なものでございます。

やはりサケ科学館にもたくさんのいわゆる資料を、引き継ぎ資料も含めておありますけど、いわゆる文章化するというところは私達も決して得意じゃないんですけども、そういうパッケージにするというところでご支援をさせていただければなというふうに思っております。

●吉中議長 他いかがでしょうか？ よろしいでしょうか？

支援事業部会に私、入させていただいておりまして実際にさけ科学館も視察といいますか、現地調査同行させていただきました。

それでその際にもちろん準認定施設に全く問題ないだろうということなんですけど、今後、円山動物園とぜひ連携協力をいろんな面で深めていっていただけるともっといいのになというような意見がたくさん出ておりましたので、ご紹介させていただきますとともに、いろいろ考えてらっしゃると思いますけれども、ぜひよろしくお願ひいたします。

よろしいでしょうか。それではこの件についてはよろしいですかね。

では続きまして動物福祉評価の進捗状況についてご意見をいただきたいと思います事務局からご説明お願ひいたします。

●事務局（林飼育展示三担当係長） はい、資料 6 をお願ひいたします。

動物福祉評価の進捗状況についてです。1番、動物福祉に関する評価についてということで年に1回、次の評価を実施することとなっております。動物園条例と動物福祉規程に基づいております。一つ目が自己評価。動物福祉基準の内容に沿ったチェックリストによる評価およびその改善案の作成。二つ目が外部評価。自己評価結果に対する評価をいただく。さらに書面だけじゃなく、現地の評価、施設の視察および職員の聞き取り等によって行っていただくという二つの評価がございます。

2番目、今までの進捗状況および今後の予定ということで、令和5年3月に動物福祉規程の制定、あとは動物福祉自己評価実施要領の策定。これを行っています。

令和5年4月から令和6年1月にかけて、令和4年度の動物福祉評価、自己評価および外部評価を実施。園として初めての評価ですけども、これを実施しまして市民動物園会議本会議へご報告しております。

これに引き続いて令和6年1月から3月で、令和5年度の自己評価を実施しております。その後4月から現在やっと終わったところですけども、その取りまとめを行っております。園内で一旦形にしまして、7月近日中に、外部評価動物福祉部会による自己評価結果に対する評価を行っていただく予定でございます。

それに引き続いて秋頃には外部評価の2番目として、現地評価を実施していただく予定であります。

参考までに、令和4年度の自己評価による指摘事項と、その対応状況ということで、資料の半分を下からまとめております。まず分野と項目と指摘への対応状況というふうになっておりますけども、まず分野が組織評価、全体への評価ですね。これについては令和4年度1項目、改善しなさいという指摘事項がございまして、検疫マニュアルが不備。無いというところですね。他の動物園、外部から動物を円山に入れた際の、すぐ他の動物と一緒にするとかではなくて、やはり病気の恐れもございますので、どういった期間どういうふうに別にして、その後一緒にするという、その決めがないんではないかということで、指摘されていまして、これについては飼育展示業務マニュアルで新たに規定しております。

あと哺乳類ですけども、資料で24項目というふうになっておりますが23項目ですね。指摘改善を要するという指摘がございました。これについては現在着手しているものも含めて19項目まで手をつけております。特に、生餌を動物に与えるという、生きた魚とか、そういうものを与える際の倫理的審査について行われていない審査をする方法が決まっていないということで、これについても飼育展示業務マニュアルの方に新たに規定しております。

あとエゾユキウサギの飼育場所も過密ではないかというような改善を求める指摘がございましたのでこれについては今年度ですね、飼育施設を改修してより良い場所を作ろうというふうに着手しております。

次、鳥類ですけどもこれについては15項目の指摘がございまして、12項目について対応しているところです。

爬虫類両生類についても5項目の指摘がございまして、2項目について着手済みというところです。

資料裏側になりますけども、3番、令和5年度の自己評価結果の取りまとめ状況ということで、評価対象者は141種類で現在取りまとめ終盤でございます。対象は令和5年度の末に飼育していた種類としております。詳細につきましては、動物福祉部会のご意見、それに対する動物園の回答をして次の市民動物園会議でご報告できればと考えております。以上でございます。

●吉中議長 はい、どうもありがとうございます。

進捗状況ということで今の状況についてご説明いただきました。何かご質問ありましたらお願ひいたします。特にございませんでしょうか。よろしいですか。はい。

それではこれから自己評価の取りまとめその後、動物福祉部会での今のご議論いただくということなので、その結果についてまた次回のご説明いただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

では続きまして最後の議題でしょうか。転入・転出・繁殖・死亡動物についてということで事務局からご説明お願ひします。

●事務局（石田推進係長） はい、資料7をご覧ください。

前回の会議からこの6月30日までに転入・転出・繁殖・死亡があった動物について掲載させていただいております。

主だったものということですが、まず転入動物につきましては3月に繁殖を目的にユキヒョウの雄が転入しております。そして5月、新しいボルネオとオランウータンの森をオープンいたしましたけれども、それまで獣舎の工事の関係で釧路市動物園に預かってもらっていました雄のオランウータンが戻ってまいりました。

続きまして転出動物でございますけれども、2月にホッキョクグマの雄を旭山動物園に転出しております。こちらは繁殖を目的に旭山動物園から来ていたものになりますけれども、契約期間満了に伴って旭山動物園に転出していたというところでございます。

そして6月、エランドの雌、東武動物公園で繁殖をさせたいというところで、そちらの動物園に転出しております。

繁殖動物の状況でございますけれども、今年の1月27日にシロテテナガザルの雄が生まれております。転入・転出・繁殖・死亡動物については以上でございます。

●吉中議長 はい、どうもありがとうございます。

今ご説明いただきました。何かご質問ご意見ありましたらお願ひいたします。よろしいでしょうか。何かお聞きになりたいこと等ありませんか。はいお願ひします。

●細矢委員 前回お話したんですけど、この前のライオンの話ですけどね。結果的に雌だったんで元に戻したよということで新しく雄を1頭、多分雄だろうと。もう雄な

んですよね？確定ですかね。

たてがみあるらしいんで、これもやはり同じように展示だけの雄と雌を展示ということだけにとどめるということですかね。

●事務局（石田推進係長）　はい。

●滝口委員　3月にニホンザルが亡くなっているんですけども、以前、円山動物園の方のお猿さんで心臓の病気が結構多いような話を聞いたことがあるんです。

もしご存知でしたら教えてほしいんですけども死因といいますか、病理解剖とかもされておられるんでしょうか？

●柴田円山動物園長　3月15日のメスに関しましては、25歳でした。

死因は異物の誤嚥に伴って肺炎を呈しておりました。解剖をしてそのように確認いたしました。

●滝口委員　何か心臓の病気がちょっと多いということであれば、連携協定の中で少しそういう研究的な部分ができるかなと思って。

●柴田円山動物園長　ありがとうございます。ぜひよろしくお願ひいたします。

●吉中議長　どうもありがとうございます。その他はよろしいでしょうか。

●有坂委員　すいません。シロフクロウが今、卵を抱えていると思いますが、無精卵なのですよね？インコを飼っていたときに無精卵を生むと体力が減ってしまうのであまり生ませないでくださいと言われた記憶があります。シロフクロウはどうなのかなと気になったので、教えていただけますか。

●柴田円山動物園長　ありがとうございます。飼育員の方で日々確認しているのですが、ある程度のところで、（卵を）回収しようかどうかとなります。今ちょっとシロフクロウ自身が頑張っているところなので、迷うところではありますけど、日々確認をしてタイミングを見計らっているところでございます。ありがとうございます。

●有坂委員　繁殖させる予定があるのですか。

●柴田円山動物園長　はい、今のところは1羽なのですが将来的には導入したいなと思っております。ありがとうございます。

●吉中議長　どうもありがとうございます。よろしいでしょうか。はい、それでは以上で今日予定されております項目を終わりました。全体を通して何か言い残したことご意見ありましたらお願いしたいと思いますが。よろしいでしょうか？はい、お願ひします。

●有坂委員　全然関係ないことなのですが、お水を用意していただいたのはすごくありがたいと思いつつ、ペットボトルは脱プラスチックを進めていかなければならない状況にあると思います。私もマイボトルを持っていますが、マイボトルを持って行きましょうと動物園で呼びかけてもいいぐらいのことだと思います。今日暑かったので気を使われてご用意いただいたと思うのですが、それこそ委員の方に連絡いただくときにご持参くださいなど、一言言っていただけると良いかと思いました。ごめんなさい、気になったのでお伝えしました。ぜひ次回から検討していただければと思います。

●事務局（寺島保全・教育推進課長）　ありがとうございます。配慮いたします。

●吉中議長　はい、どうもありがとうございます。

それでは以上で今日の議事を終了したいと思います。皆さんどうもありがとうございます。

では、進行を事務局にお戻しいたしますどうもありがとうございます。

●事務局（寺島保全・教育推進課長）　はい、ありがとうございました。

皆様、長時間にわたり、ご審議いただきまして大変お疲れ様でした。ありがとうございます。

次回会議日程なんですけれども、11月以降を想定してございます。また改めまして、後日メール等で日程調整させていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。本日はどうもありがとうございました。